High ♥ Line Wakabayashi

はいらいん若林

みんなでここさ　入らいん！

若林区まちづくり協議会会報　2020.3.1　Vol.23

若林区探訪 その十

地下鉄東西線開業で魅力再発見

荒井駅界隈

地下鉄東西線の開業にちなんで掲載してきた、若林区の地下鉄駅界隈探訪も、今回が最終となりました。都市の近郊にあって、居久根（民家を囲む屋敷林）の伝統的景観を残す、自然豊かな七郷、荒井地区は、今や、沿線唯一の新市街地として、装いを新たにしています。

3500年の歴史をつむぐ荒井地区

地下鉄東西線の東の起点である荒井地区は、仙台の米どころ七郷の中心地として古くから発展してきましたが、その歴史は、驚くことに、さかのぼること約3500年と言われます。その裏付けとして、駅の南側の沓形遺跡からは弥生時代の水田跡が、西隣の荒井広瀬遺跡からは同時代の石器が出土しており、さらに、この辺りは大昔から巨大津波に襲われてきたことも明らかです。すなわち、荒井駅周辺には縄文・弥生時代から人々が住み着き、約2000年前には水田稲作が行われていたことがわかります。そして、その脈々と続いてきた営みは、藩政時代の精力的な新田開発により、盤石なものとなってこの地に受け継がれ、以来長く「仙台の台所」を担ってきました。

明治になり、荒井村を始めとする七村一浜が合併して「七郷村」が誕生。その中心が荒井地区でした。中でも交通の要衝にあった「十文字」は、七郷随一の繁華街であったとのこと、当時の賑わいが偲ばれます。その後、昭和16年に仙台市に編入されましたが、人口の増加や暮らし方の変化等、時代の波はこの地域にも及び、仙台バイパス等の開通に伴う周辺の市街化や、「荒井土地区画整理事業」の開始を機に、田園の景観は一変して、新たな街づくりが始まりました。折悪しく、地下鉄東西線の開業を前に大地震に見舞われましたが、震災後は復興活動の拠点としても、新たな顔を見せています。

▲ 地下鉄東西線荒井駅周辺

新しいまちづくりの拠点として

現在の荒井地区は、営農地域から、荒井駅を中心に新しいまちづくりが推進されています。

駅の中にある「せんだい3・11メモリアル交流館」は、震災の記憶を残し、交流スペース、参加型展示、イベント等の多彩な取り組みにもチャレンジしています。

駅の交通アクセスは、1日288本の発着があり、1日の乗降客数は平日約2,900人・休日約1,700人で、地区での利便性向上（仙台駅まで13分）と併せて、地域情報ボードを設置し、利用客の情報共有をサポートしています。その他、交通網として、駅前にバスプールがあり、タクシーも待機していて、地区のくらし、各イベント、通勤通学、施設利用等の足を確保しています。

また、周辺は、若林警察署、ライブハウス、クリニック、ホテル等の施設の充実により、新しい住環境が整備されています。

荒井駅周辺の未来

駅周辺のまちづくりは、「暮らす楽しさ、訪れる楽しさを持った東部地域の中心になる街」を目標としています。駅周辺は近隣商業地域に位置づけられており、商業・事務関連の集積が期待されます。

荒井駅は、荒井地区とその周辺地域の重要な交通の結節点となっており、これからも大いに利用が増えていくでしょう。周辺地域には、水族館、大型ショッピングセンター、農業園芸センター、海岸公園（その周辺のサイクリングロード）など、多くの楽しみを市民と共有できる環境があります。

居久根が残り、深沼海水浴場へのアクセスなど、自然とともに生活が営まれている場所が未来に継続していることも重要です。自然が近場にあるまちづくりが可能な地域としてますます発展していくことでしょう。

▲ 荒井地区の玄関口「荒井駅」

〈参考文献〉「ふるさと七郷 ―もうひとつの仙台―」「上荒井町内史」

会報の愛称「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん（お入りください）」に英語のhigh（ハイ・高い）とline（ライン・路線、進路などの意）とをかさねあわせた造語です。温かさとより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

地域の話題

若い力で河原町を盛り上げる！～河原町マルシェ～

藩政時代、青物市場があったという河原町。農産物の流通の拠点として、城下でも有数の商人町でした。

河原町マルシェは、「青物市場があった時代の賑わいを復活させよう！」と、河原町商店街振興組合・「河原町マルシェ」実行委員会（髙橋理武委員長）が年3回の予定で企画運営をしています。1回目は昨年の8月4日に「2019河原町夏まつり」と同時開催。そして2回目は、10月20日に「マグロだ！新米だ！丼フェスだぁー！」というパワフルなテーマで開催されました。

▲ 丼ぶりフェス会場は大にぎわい

商店街通りには、ハンドメイドのアクセサリーや小物を販売するブース、産直野菜、水産加工品、マッサージや似顔絵コーナーなど、出店者との会話も楽しい空間が広がっていました。そして、なんといっても新米に自分で好きなものをトッピングする丼！ おいしそうなものだらけで、どんな丼を作ろうか悩んでしまいます。更に、大勢の人が見守る中でマグロ（三陸塩竈ひがしもの）の解体ショーも行われ、試食のほか、抽選によるプレゼントもありました。50キロを超えるマグロを解体する職人さんの技に、子どもたちからも「お～！」という歓声があがり、こういう大人の姿や技を見せることが次代を育てることになるのだと感じました。

このマルシェは、商店街の若手が中心となって運営しており、たいへん活気のある催しとなっています。今回は、丼を囲んで参加者同士の会話も広がり、訪れた人みんなが笑顔になったマルシェでした。実行委員の皆さんの若い力と柔軟な発想で、「商店街の魅力を発信し、笑顔が弾むまちにしたい」という思いが強く伝わってきました。

3回目のマルシェは4月29日（祝日）の予定。今からとても楽しみです。

（米倉　記）

はっぴい子育て　『出前のびすく・子育てサロン』

平成29年10月、仙台市子育てふれあいプラザ若林（以下、のびすく若林）が若林区中央市民センター別棟（区役所東側）2階にオープンしました。3年目の現在では、1日平均100人以上の親子で賑わい、「子どもと家で過ごすことが多かったけど、思い切って来てみて良かった」「話を聞いてもらってスッキリした」などの声が聞かれ、安心して訪れることのできる居心地の良い施設となっています。

のびすく若林のキャラクターはウサギ…地域にもぴょんぴょん飛び出して、長い耳で皆の声をしっかりキャッチし、子育て支援の輪を広げるという思いが込められています。そして、地域に飛び出したのが『出前のびすく・子育てサロン』です。

「のびすく若林に行くのはバスの便も悪いし…」という六郷地域で、平成30年12月から「久保田東子育てサロン」、令和元年5月から「六郷子育てサロン」を始め、お茶会を軸にしていろいろな企画を立てています。久保田東町内会の集会所では、ママたちの希望でバランスボール運動やおしゃべりの会、クリスマスゲーム大会などを行い、ママ友の輪を広げています。六郷市民センター（共催事業）では、パントマイムや親子ヨガ、簡単カワイイ手づくりの会など、講師を招いてステキな時間を過ごしています。子どもたちも、思い切りハイハイしたり、お昼寝したり…親も子も自由に楽しく過ごせるよう、のびすくスタッフがお手伝いしますので、気軽に訪れてみてはいかがでしょうか。

▲ 親子ヨガでリフレッシュ

※サロンの開催日等は、のびすく若林（☎022-282-1516）までお問い合わせください。

（米倉　記）

活躍する女性

絵本セラピスト協会認定
絵本セラピスト®

相澤 美紀 さん

絵本セラピー®を知らなかった私がお会いした相澤美紀さんは、やさしい笑顔で現れました。絵本セラピー®との出会いをお話しながら、一冊の絵本を出して私たちに読んでくれました。その後に、一人ずつどのように感じたか聞かれました。読んでいただいた私たちは、3人ともまったく違うとらえ方で・・・。こんなに違うものかと思いました。美紀さんは、「人は一人一人が違うので感じたままでよい。」と話されていました。

美紀さんが絵本セラピー®に出会った時、ご自分の子ども時代に、いつも心配かけないような良い子でいようとした時の辛かった心に寄り添ってもらえたように思えたそうです。“絵本を通して、心の宝物を増やしてあげたい”、“受け止めてもらえる安心感や過去の辛かったこと、自分が言えなかったことを言える環境を作ってあげたい”ということを大事にしているそうです。

「なんで絵本なの？」と聞かれることもあるそうですが、「絵本は心の記憶。読んでくれる人の声がたくさん詰まっている。」と話していました。また、絵本は時間と心の余裕を生み、自分を満たしてくれるとも話してくれました。伝える人の心と笑顔が、相手にしっかりと伝わるそうです。活動を通して笑顔になれる、今はそれだけ思って活動していると話す姿からは、絵本を通して心に寄り添ってあげたいという思いが伝わってきました。

つい先日、「のびすく若林」で絵本の読み聞かせをする美紀さんと偶然お会いしました。その空間は、ゆったりとした温かい空気に包まれていました。

（相澤・米倉　記）

若林区まちづくり協議会
事務局
若林区役所まちづくり推進課内
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1
TEL 282-1111

会報プロジェクトメンバー

リーダー　清水公七
相澤雅子
勝又久雄
西條芳郎
志子田喜恵子
米倉正子

編集後記

「はいらいん若林」は、平成から令和へと新たに始動しました。

会報プロジェクトに、今回、新しいメンバーが加わり、初回発行から23回目の会報となります。新しい年号と共に、編集メンバーは「ONE TEAM（ワンチーム）」となり、これからも希望と魅力あるまちづくりに熱い思いを発信したいと思います。

（会報プロジェクトリーダー　清水　記）

町内会は今

現在、区内各町内会は、地域のコミュニティづくりに大変な努力を継続しています。しかし、住民の無関心化などもあり、活動に一部困難も出てきています。その中で今回は、活発な活動を行っている2つの町内会を紹介し、これらの活動が皆様のこれからの参考になればと思っています。

日本一の町内会をめざして　～若林中央町内会～

若林一丁目のバス通りをちょっと入ったところに、松原公会堂があります。月に2回の資源回収の日には、公会堂の前庭には見事なほどの新聞紙やダンボールの山が！なぜこれほどまでに資源回収が盛り上がるのかというと、「この公会堂の建設費のために、みんなで頑張っているんです」と、鎌田徹会長。

大正6年に当時の松原生産組合の有志40人によって建設されたこの公会堂は、老朽化に加えて東日本大震災により床や屋根が破損し、使えなくなってしまいました。若林中央町内会ではこの再建に取り組み、補助金では足りなかった建設費捻出のために寄付を募ったり、資源回収の回数を増やしたりして、ようやくあと少しで完済というところまできたのです。そんな善意の結晶であるこの公会堂は、平成27年12月に落成し、子ども会や高齢者の集まりなど日常でも活発に利用され、夏祭りにはたくさんの人で賑わいます。

新しい公会堂には、人々が集いやすい工夫がいっぱいです。屋根付きの濡れ縁は、散歩や買い物の途中にちょっと一休みでき、踊りや趣味の会の発表ステージにもなるそうです。室内は、フローリングの部屋が2つ。続き間として使うこともできます。トイレは清潔感があふれ、壁紙もやさしい風合いで、おもてなしの心は「日本一」とのこと。

同町内会の目指す「日本一」は、新年のあいさつと共に各戸に配付されています。

① 明るい、元気な、前向きな　② お年寄りや子どもたちを大切にする
③ 笑顔のあふれる　④ 挨拶しあう
⑤ 何かがあればみんなで助け合う　⑥ ゴミひとつ落ちていない

そして、合言葉は「町内会はひとつ！みんなで参加！みんなで清掃！みんなで役員！」。

ひとりひとりが隣人を思いやり、いきいきと暮らせるまち…公会堂を拠点として、日本一のまちづくりが進んでいます。　（米倉　記）

▲笑顔あふれる夏祭り

地域のきずなの再生を願って　～三本塚町内会～

若林区東部の、海岸から2㎞離れた所に位置する三本塚地区は、東日本大震災の巨大津波によって地域が全壊しました。しかし、現地再建が可能になった後は、戻ってくる住民が多く、現在は、驚くことに、約7割の方々が生活しているとのこと。だからこそ、「より顔の見える関係をつくりたい」と、小野吉信町内会長は、心底そう願って陣頭指揮をとっているのでしょう。その具現化のために、様々な工夫と努力がなされていました。

まず目を引くのが、町内会の構成員。居住しなくても宅地があれば、準会員として半額の会費で入会可能にしたり、興味を持つ他地区の人も受け入れたりして、人員の確保・拡充に力を入れています。現在、町内会への加入世帯数は約90で、震災前に届くほどです。運営面でも、若手が多い役員会は1時間のみと決めて効率をよくしたり、他団体との協働による活動の輪を広げ、合同の役員会を通して日頃から結び付きを強くする等、内外ともに充実した円滑な運営のための方策を講じていて、感心させられました。

町内会の行事が多いのも特色です。春に行う入学・進級祝いの会や夏のお祭りは、後継者となる子どもたちの育成も兼ねた工夫された中身で、昔ながらの暮らしのぬくもりを感じました。また、隔月に1回のお茶カフェや、年3回の集落総出で行う共同作業、全家庭が参加する2月の総会等も、住民同士が集まってつながる絶好の機会となっているようです。

その他、震災後に始めた、三本塚ならではの食文化の継承としての「オモイデゴハン」や、被災地見学に訪れた町田市の高校生との毎年の交流等、取り組みは実に多彩です。それも、行政との連携や助成金の活用、地域コミュニティがあればこそで、地域の絆の再生を願う小野会長の思いと手腕、そして、何よりも地域の方々の惜しみない協力が光る町内会だと、そう感じながら取材を終えました。　（相澤・志子田　記）

▲会員総出で花壇づくり

令和2年度 若林区まちづくり協議会の行事予定

※詳しくは「市政だより」「若林区ホームページ」等でご案内いたします。

4・5月 役員会・総会	7月（第1土曜） 若林区合唱のつどい	8~11月 若林区スポ・レク・フェスタ	10月（第3日曜） 若林区民ふるさとまつり
2月 交流会	3月 会報「はいらいん若林」vol.24発行	7~翌3月 76.2MHz ラジオ3にて毎週土曜日午前10時から「ラヂオはいらいん若林」放送 インターネットで放送を聴くこともできます（サイマルラジオまたはラジオ3ホームページ）。	

若林区まちづくり協議会におけるイベント紹介

若林区まちづくり協議会は、区民参加の住みよい魅力ある若林区をめざして、区内でまちづくり活動を行っているグループを支援し、まちづくり協議会独自のイベントを行っています。

若林区民ふるさとまつり

令和元年11月4日午前9時より、若林区役所特設会場にて、「第31回若林区民ふるさとまつり」を、「平成から令和～もっともっと若林（ここ）を好きになる」というテーマのもとに開催しました。

▲ステージパフォーマンス（太鼓）

自衛隊のヘリコプター、消防はしご車、白バイ、東北電力高所作業車の展示や搭乗体験をはじめ、大人気のザリガニ釣りや若林区内の6校（小中高、専門学校）による学校じまん、復興応援スープ&パンやステージパフォーマンス、フリーマーケットに伝統工芸弟子入り体験教室、わたしの作品展やふわふわ！エアドーム、若林消防団階子乗り隊の演技など、子どもから大人まで楽しめる企画を今年もたくさん用意しました。

天気がよくて暖かかったことや、会場とイオンスタイル仙台卸町を結ぶシャトルバスが運行されたこともあり、大勢の方にご来場いただけたと思います。

令和2年は例年通り10月の第3日曜日に開催する予定ですので、皆様のお越しを心からお待ちしております。

最後に、おまつりにご協力くださった全ての方に感謝申し上げます。

若林区民ふるさとまつり実行委員長　佐藤　栄徳

若林区まちづくり交流会に参加して

若林区まちづくり協議会主催のまちづくり交流会が、平成31年3月5日に若林区文化センターにおいて約70名の参加で開催されました。イベントの趣旨は、区内のまちづくり活動を行っている方々が、情報交換し、横の繋がりを持っていくことです。

前回までは、パネルディスカッションを行った後、テーマに沿って各テーブルで交流するスタイルでしたが、参加者からもっと自由に交流したいとの意見もあり、今回は数グループからの発表とポスターセッションという形に変更しました。

会は挨拶に始まり、7つの団体から活動発表があり、その後、参加した各グループは自分たちのアピールポスターのブースで参加者と交流しました。センターに用意されたテーブルでは、お茶とお菓子をつまみながら会話が弾みました。アンケートで、イベントは良かったとの意見が8割を超えました。お互いの理解と協力が深められたと思います。

まちづくり協議会総務・企画部会長
西條　芳郎

▲アルカスの活動発表（蒲町中）

若林わくドキまち歩き

最高の花見日和で今年のまち歩きはスタートしました。桜の名所松音寺では期待以上の見事さに全員が圧倒されました。参加者から思いがけず学術的な話を頂き、ミニ桜博士の気分になりました。仙台一高の桜を愛でたあと、陸奥国分寺を目指し、途中で桜を見つけたりして楽しんだまち歩きでした。

第2回は開通前の「東部かさ上げ道路を歩こう」でした。貸切バスで荒井駅を出発、途中で工事の説明を受け、到着後に徒歩で開通前の広々したかさ上げ道路を全員で歩きました。自分の足で歩き、復興の力強さを実感しました。

第3回は「南染師町と職人の技」で、藩政時代の名残りの風景をながめ、町内に残る唯一の染工場(永勘染工場)を見学して、今も残る職人の技を目の当たりにしました。いずれも好天に恵まれた楽しいまち歩きでした。

若林わくドキまち歩きリーダー　永野　仁

▲春満開桜コース

スポ・レク・フェスタ実行委員会

スポ・レク・フェスタ実行委員会は、若林区まちづくり協議会の若林区民ふるさとまつり実行委員会に属する委員会です。当委員会はスポーツ・レクリエーション活動を通して、若林区民の健康増進と体力向上を目的として活動している団体です。

今年は、中学生ソフトテニス大会・ミニテニス大会・卓球大会・少年野球親善交流大会・中学生バドミントン大会・ゲートボール大会・ソフトボール大会・健康ウォークラジオ体操大会・剣道祭・小学生バレーボール大会・サッカー普及祭・クラブ対抗家庭バレーボール大会を開催しました。毎年、3,000名前後の参加です。各競技団体のご協力に感謝申し上げます。

また、若林区民ふるさとまつりでは、「ごみバスターズ」としてリサイクルステーションを担当し、ごみの分別・減量に努めて活動しています。

▲大会表彰

スポ・レク・フェスタ実行委員会　堀江　新一郎

若林区合唱のつどい

「皆で楽しく歌おう」を合言葉に、合唱のつどいを毎年7月の第1土曜日に開催し、今年度で26回を数えました。

若林区合唱連盟参加団体の他に、区内の小学校、中学校、高校等の若い歌声も魅力的で、ブラスバンドやチアリーディング等のゲストも迎え、楽しんでいただいております。

七夕に近いのでオープニングの全体合唱は「たなばたさま」とし、指揮を若林区の区長さんに代々お願いして、とても楽しい企画になっています。

この日のために、毎年、一般参加の「わかばやし区民合唱団『宙』（そら）」を結成し、多くの指揮者の先生方のご指導をいただいて、楽しんでいます。歌うことで、姿勢も良くなり、大きな声を出し、歌詞を覚え、皆さんに見られることにより、いつまでも若く過ごせるようです。

各合唱団は、団員を募集しております。

若林区合唱のつどい実行委員長　阿部　勝彦

▲オープニング（白川若林区長指揮）